

## 中生穂肥編

### 1 水稻生育概況と当面の管理

6月28日現在、早生品種、コシヒカリともに草丈は平年並み、茎数も平年並みに確保されています。コシヒカリは葉色が濃く、茎数の淘汰が進まず、最高分げつ期は7月上旬頃になると見込まれます。現時点でコシヒカリの幼穂は確認されていませんが、葉齢の展開速度は平年並みであり、今後の気象を勘案すると、出穂期は平年より2日程度早い7月31日頃（平年8月2日）になると見込まれます。

特に本年は葉色のさめ・茎数の淘汰が緩慢で、弱小分げつが多く「乳白粒」の多発が懸念されるので、今後は、①「出穂までの飽水管理の徹底」、②「適期・適量の穂肥施用」、③「出穂期以降の適切な水管理」を徹底するとともに、④「斑点米カメムシに対する出穂後の2回防除の実施」に努めましょう。

【参考 生育調査結果（6月28日現在）】

品種	調査場所	田植日	草丈 (cm)			株当たり茎数 (本/株)			葉齢 (枚)		
			本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比
コシヒカリ	羽咋市立開	5月2日	52.3	127	93	27.2	83	94	10.5	104	100
	志賀町福野	5月4日	51.2	116	97	29.0	80	118	10.3	103	101
	志賀町八幡座主	4月28日	51.0	116	99	37.5	111	139	11.0	110	105
	中能登町小竹	5月6日	47.0	120	90	20.7	90	88	10.1	102	97
	七尾市中島町河崎	4月29日	52.5	114	103	33.2	99	122	10.7	110	104
コシヒカリ平均			51.0	119	96	29.5	93	113	10.5	106	101
ゆめみづほ	志賀町福野	5月11日	42.6	94	88	24.4	64	79	10.6	99	98
	宝達志水町小川	5月1日	51.1	119	100	31.1	92	94	11.3	111	99
	七尾市中島町河崎	5月4日	46.7	116	99	36.7	111	127	11.3	107	104
	中能登町新庄	5月3日	46.4	113	93	29.6	92	108	10.9	101	100
ゆめみづほ平均			46.7	110	95	30.4	89	101	11.0	104	100
ハナエチゼン	中能登町川田	5月8日	46.5	109	92	29.8	88	117	10.5	97	98
ほほほの穂	羽咋市立開	5月5日	44.7	95	82	26.2	66	91	10.6	98	97
ひやくまん穀	羽咋市千路	5月5日	50.3	128	—	32.2	244	—	10.7	114	—
	七尾市中島町笠師	5月10日	44.1	121	—	26.5	121	—	9.4	115	—
ひやくまん穀平均			47.2	125	—	29.3	168	—	10.1	114	—

#### 〔今回のポイント その①〕

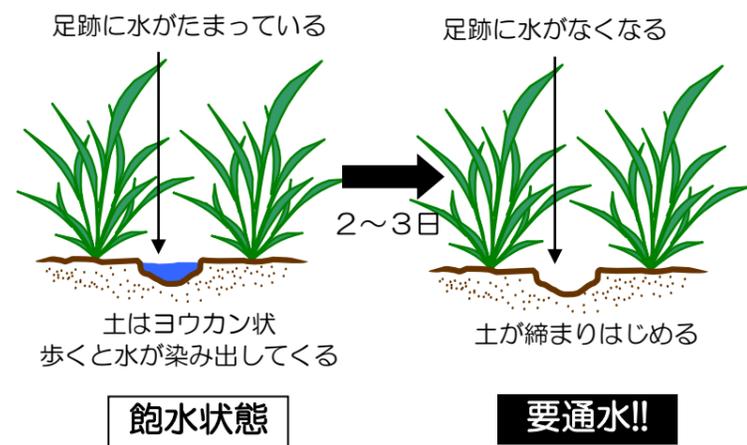
## 中干し後から出穂までの約1か月間の「飽水管理」の徹底

### 2 中干し終了後の水管理（根の活力維持）

幼穂形成期（中干し終了後）から出穂期にかけて、稲体の活力維持に重要な表層根が発生します。

また、出穂期以降は新根の発生はほとんどなくなることから、中干しで確保した根を収穫時期まで維持する必要があります。

中干し終了後は2～3日間隔を目安に通水し、飽水状態（右図）を保ち、根の活力維持を図りましょう。

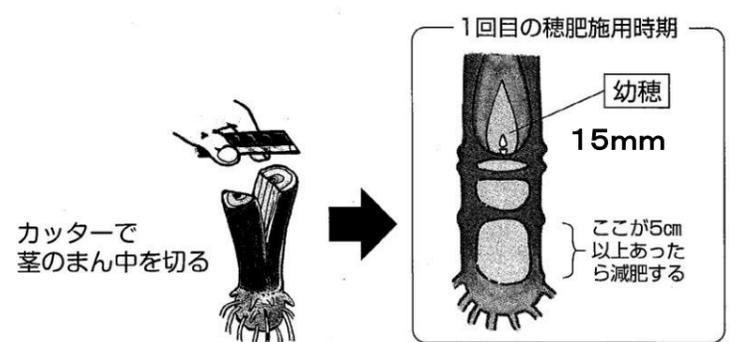


#### 〔今回のポイント その②〕

## 穂肥の「適期」「適量」施用で未熟粒の発生を防止!!

### 3 出穂予測と穂肥時期の目安

- ① 田植え時期・ほ場条件・気象条件等により、出穂期は前後するので、穂肥は必ず幼穂長（15mm）を確認して施用すること。
- ② 葉色が濃く茎数が過剰で草姿の乱れている（葉身の垂れている）圃では、1回目の穂肥時期を2～3日遅らせ、施肥量を2割ほど減じて施用し、2回目の穂肥は必ず施用する（重要）。
- ③ 化学窒素成分量を3割削減した能登米コシヒカリについては、基肥にBB高度056号を上限の28kg/10a施した場合、BB有機入り能登穂肥一発またはBB能登みのり（2回合計）の施用量の上限は30kg/10a以内とすること（※ご不明な点はJAまでお問い合わせ下さい）。
- ④ 基肥一発肥料を施用した圃場では、原則、穂肥を施用しないこと



裏面に続きます。

## 追肥（穂肥）時期と施用量の目安

品種名	出穂予測日	施肥体系	肥料名	穂肥時期 (出穂前日数)	葉色	施肥量(10a当り)
能登米 コシヒカリ	7月31日頃	一発体系	BB有機入り能登穂肥一発	7月16日頃(-16日) 幼穂長: 15mm	3.5	25~30kg
		分施体系	BB能登みのり	1回目 7月16日頃(-16日) 幼穂長: 15mm	3.5	10~15kg
				2回目 7月22日頃(-10日)		10~15kg

※「能登米」コシヒカリでない方（慣行米）は肥料の種類、施用量の制限はありません。

### 〔今回のポイント その③〕

## 刈り取り直前まで【乾かさない】【ずっと溜めない】【すぐ落とさない】

### 4 出穂期以降の水管理（収穫直前までの稲体の活力維持）

出穂期以降は、籾への養分集積（転流）を促進させるため、刈取り直前まで1か月以上は飽水管理を継続しましょう。

- ① 通水は出来るだけ朝方か夕方に行いましょう。
- ② 夏期の湛水状態は、水田内の水温が上昇し、根の機能を低下させるので速やかに排水してください。
- ③ 集落や地域ぐるみで、計画的な水利用に努めましょう。
- ④ 刈取り直前まで出来る限り飽水状態を保ちましょう。

- ◆「長期湛水」→根腐れにより根機能が低下
- ◆「干ばつ」→表層根を傷め、登熟に重要な下葉の枯れ上がりにつながる



稲体の早期栄養凋落や倒伏につながり、登熟不良や登熟ムラの要因になります！

#### 【参考1】玄米の長さや幅はいつ決まる??

玄米は開花後、約5日で長さ、約14日で幅、約20日で厚さが決まります（図1）。この期間の登熟状態がそれぞれの発達に影響を与えることとなりますが、特に「厚さ」については、最も遅く成熟期近くまで影響を受けます。

このことから、品質・収量の安定を図るため、刈り取り直前まで水管理を徹底し、登熟向上に努めることが玄米の発達からみても重要です。

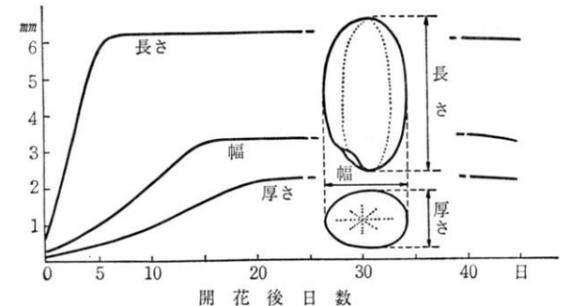


図1 玄米の外形の発達

#### 【参考2】出穂後の水管理が品質に及ぼす影響

高温年においては、5日間隔の間断通水を行う慣行管理に比べて、夜間通水により乳白粒や胴割粒の発生が抑えられます。夜間通水を行えない場合でも、通水間隔を短くして常に飽水状態を維持すると、慣行管理に比べて品質低下を抑えることが出来ます（図2）。

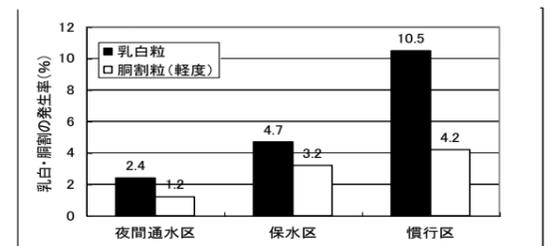


図2 出穂後の水管理が品質に及ぼす影響

### 〔今回のポイント その④〕

## 出穂後の2回防除を徹底し、斑点米の発生を防ぎましょう。

### 5 カメムシによる斑点米発生防止対策

斑点米カメムシの生息密度を下げるため、7月10日頃までに地域・集落ぐるみで畦畔や農道等の一斉仕上げ除草を実施しましょう。

ただし、7月中旬以降の除草は、斑点米カメムシを本田に追い込むこととなるので、基幹防除直前に行ってください。

基幹防除では、出穂期の7日後（穂揃期）と、14日後（傾穂期）の2回防除が斑点米の発生について重要となりますので、確実に実施しましょう。

一斉草刈り強化週間

7月4日(水)~10日(火)

#### (1) 基幹防除 ①粉剤体系

※散布時期は現在の生育状況による目安です

回	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期		
				早生	中生	
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	トレバリダビーム粉剤 DL	2成分	4kg	7月17日~19日	7月27日~30日
2回目	いもち病、カメムシ類	ラブサイドクラブ粉剤 DL	2成分	4kg	7月25日~28日	8月3日~6日
3回目	カメムシ類	クラブ粉剤 DL	1成分	4kg	8月1日~4日	8月10日~13日

※ 粉剤は防除効果をもとめるため、風の無い時間帯を見計らい、散布後3~4時間は降雨がない日に散布する。

## ②粒剤体系

粒剤防除は一人で散布できることや、粉剤のような飛散（ドリフト）が少ないため、市街地等でも散布が可能なメリットがあります。

回	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	イモチエースキラップ粒剤 <span>2成分</span>	3kg	出穂の10～12日前に散布 (散布後4～5日の湛水)
2回目	カメムシ類	キラップ粒剤 <span>1成分</span>	3kg	出穂3～7日後に散布 (散布後4～5日の湛水)

## ③液剤・ヘリ防除体系

回	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	ビームエイトトレボンゾル <span>2成分</span>	650倍・100L	早生品種 7月17日～19日	出穂直前防除
		バリダシン液剤5 <span>0成分</span>	1000倍・100L	コシヒカリ 7月27日～30日	
2回目	カメムシ類	キラップフロアブル <span>1成分</span>	1000～2000倍 ・60L～200L	早生品種 7月25日～28日 コシヒカリ 8月3日～6日	出穂7日後、 穂揃期防除

## (2) 随時防除の実施

病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	摘要
稲こうじ病 墨黒穂病	撒粉ボルドー粉剤DL または Zボルドー粉剤DL <span>0成分</span>	3～4kg	【予防剤】常発地では出穂10～14日前に散布 (出穂10日前以降は薬害の恐れがあるので散布しない)
紋枯病 稲こうじ病 墨黒穂病	モンガリット粒剤 <span>1成分</span>	3～4kg	【予防剤】常発地では出穂14～21日前に散布 (散布後4～5日の湛水)

※ 撒粉ボルドー粉剤DL、Zボルドー粉剤DLは、化学合成農薬成分にカウントされません。

## 斑点米カメムシ類が多発しています

7月2日に、JA能登わかば管内で畦畔など雑草地での斑点米カメムシの生息調査を実施したところ、1地点あたりの捕獲数は平均5.3匹(昨年2.5匹)と、昨年から**倍増**しており、特に**飛翔性であるアカスジカスミカメの割合が高くな**っています。

また、カメムシが捕獲された地点も、調査地点の78%(昨年78%)と、**ほぼ全域で斑点米カメムシ類の生息が確認**されており、飛翔性カメムシ類が多いことから本年も斑点米の多発が懸念されます。斑点米防止のため、**出穂7日後&14日後の2回防除**を必ず実施しましょう!!

### 【歩行性】

トゲシラホシカメムシ



体長5～7mm

コバネヒョウタン  
ナガカメムシ



体長5～6mm

### 【飛翔性】

アカヒゲホソミドリ  
カスミカメ



体長5～6mm

アカスジ  
カスミカメ



体長5～6mm

ホソハリカメムシ



体長9～11mm

クモヘリカメムシ

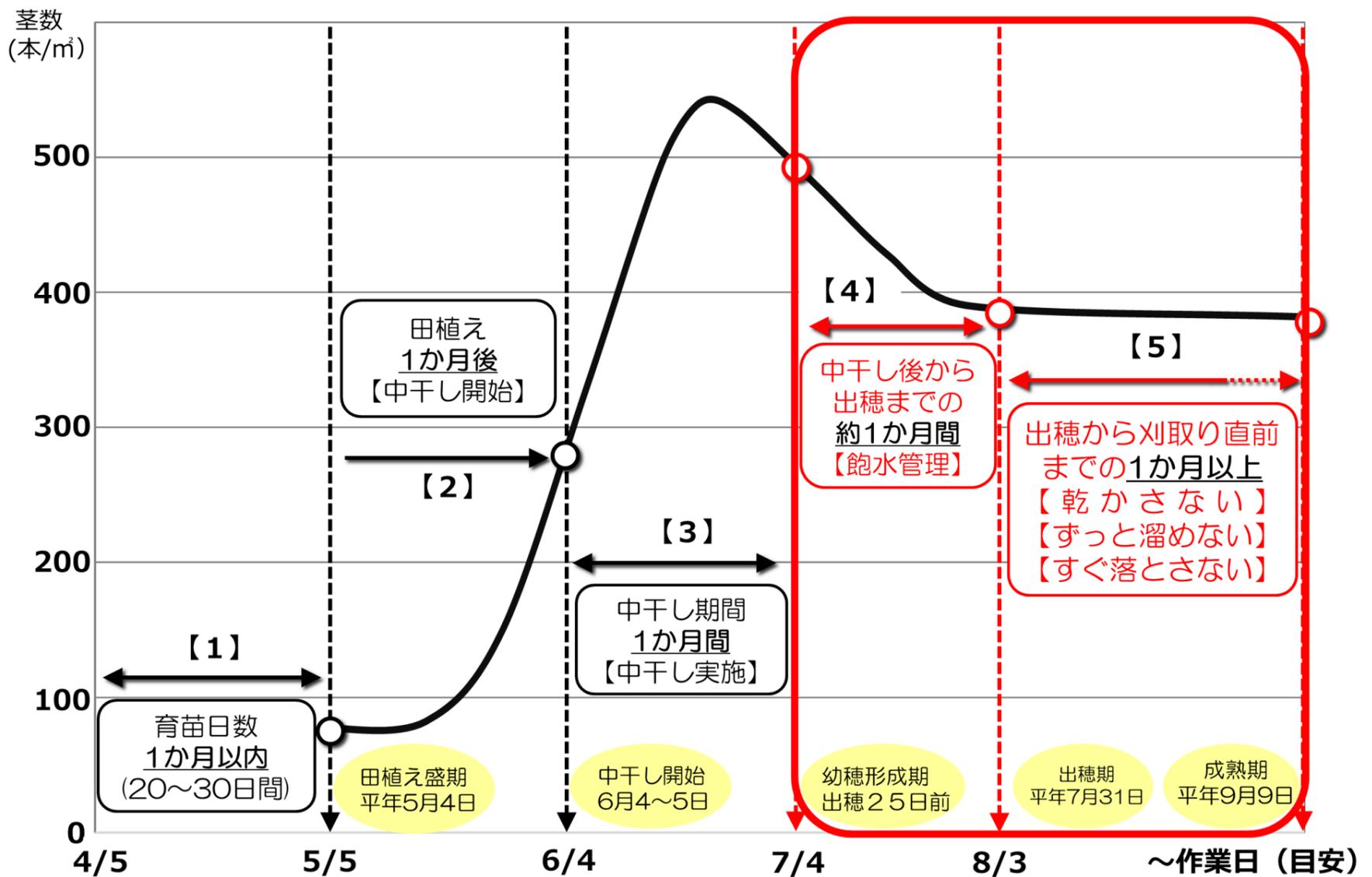


体長15～17mm



# 5つの1か月対策のポイント

- 【1】育苗日数は、1か月以内（20～30日間）
- 【2】中干し開始は、田植え1か月後
- 【3】中干し期間は、1か月間（コシヒカリ）
- 【4】中干し後から出穂までは、約1か月間（コシヒカリ）の飽水管理
- 【5】出穂から刈り取り直前までの1か月以上は、  
①乾かさない・②ずっと溜めない・③すぐ落とさない



【農薬の適正な使用について】ラベルに記載してある使用方法以外の使い方をすると法律(農薬取締法)で罰せられます。消費者に安心して安全な能登のお米を食べていただく気持ちをもって、農薬は正しく使用して下さい。